



水通信



2022.8.30 第187号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

水資源機構（旧水資源開発公団）は、令和4年（2022年）5月1日で設立から通算して60年を迎えました。

今後も「安全で良質な水を安定して安くお届けする」経営理念のもと、事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

60年記念動画を、こちらからご覧になれます。



豊川・木曽川水系30ver.jpg



豊川水系15ver.jpg



木曽川水系15ver.jpg

水資源機構ホームページでも、60年記念事業についてお伝えしていきます。

<https://www.water.go.jp/honsya/honsya>



目次

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。
各事業所名をクリックすると目次に戻ります。

☆ **【巻頭言】**

- 中部支社総務部長 梅村 喜重

☆ **【中部管内水源情報】**

☆ [インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』](#)

☆ 《新着情報》

[中部支社](#)

- 令和4年度中部支社優良工事等の表彰を行いました

[豊川用水](#)

- 高校総体自転車競技東海大会が開催されました
- 熱中症対策講習会を実施しました
- 巻上機の運転に係る特別教育を実施しました
- 寒狭川下漁協イベントに参加しました

[木曽川水系連絡導水路](#)

- 徳山ダム堤体登坂の自然体験プログラムを応援補助しました

[愛知用水](#)

- 令和4年度可搬式浄水装置実地訓練（第1回）を実施しました

[木曽川用水](#)

- 弥富市との防災協定を締結しました
- 地元小学校の木曽川堤防清掃と総合管理所見学会を開催しました
- 環境水路の生き物調査に参加しました!!
- 防災訓練を実施しました（船舶等操作訓練）

[岩屋ダム](#)

- 「岩屋ダム見学会」を開催しました
- 「環境体験学習会」を開催しました

[阿木川ダム](#)

- 阿木川ダム流域水質保全対策協議会を開催しました
- ダムの地下で日本酒の貯蔵・熟成をはじめました

[徳山ダム](#)

- 貯水池内で魚類等の生息環境改善活動を実施しました
- 「水の日・水資源機構60年」記念特別見学会を開催しました

[長良川河口堰](#)

- 桑名水郷花火大会が開催されました

[味噌川ダム](#)

- 「やぶはら高原はくさいマラソン」に参加しました
- 木祖中学校生徒の職場体験学習が行われました

[三重用水](#)

- 中里ダム「離郷の碑」の清掃活動を実施しました
- 菰野調整池直下流赤川の清掃活動を実施しました

☆ **【編集後記】**

- 担当課 中部支社総務部 経理管財課

巻頭言

【中部支社総務部長 梅村 喜重】

4月1日付けで中部支社総務部長に着任しました梅村です。前任地の豊川用水総合事業部では経理課長を務めておりました、引き続きよろしくお願いたします。

今年の東海地方の梅雨入りは6月14日頃と平年より8日遅く、梅雨明けは6月27日頃と平年より22日も早く梅雨期間最短を記録しました。平年より1ヶ月近く早い梅雨明けは、梅雨により期待されたダム貯水量の回復が出来なかったことから、利水者の皆様にはたいへんご心配をお掛けいたしました。幸い7月に入り戻り梅雨のような降雨が続いたことで、管内各ダムの貯水量は劇的に回復したため、節水対策に入ることなく職員一同ほっとしているところです。

話は変わり、5月17日東海農政局が管理する明治用水頭首工においてパイピングによる大規模な漏水が発生し、農業用水・水道用水・工業用水の取水が困難になりました。災害発生した同日、東海農政局から当機構に対してポンプ車等の支援要請があったことから、ポンプ車等の設置及び操作する職員32名を現地に派遣し緊急取水の支援を行い、その後5月31日には人的支援の追加要請があり、6月1日本社に緊急災害対策本部、中部支社に緊急対策支援現地本部を設置し、本社、中部支社、中部管内事業所から常時8名の職員を現地に派遣して、仮設ポンプの維持管理、農業用水受益地域の巡視点検（用水の到達確認、漏水箇所への把握）、空気弁の漏水対応等を行い、7月からは体制を縮小しながら月末の7月29日まで人的支援を実施しました。この要請に迅速に対応できたことは日頃からの訓練の成果で、実際に災害対応をした職員はさらに経験値を高めることが出来たと考えます。

また、この災害の初期段階では、田植え時期を迎えていた農地への給水停止、工業用水使用量削減要請に伴う自動車関連事業所等での減産や火力発電所の発電停止など、広範囲にわたる影響の大きさに驚くとともに、決して他人事ではなく、同様の施設を管理し、多くの利水者の皆様に用水を供給している当機構の責任の重さを改めて確認したところです。

9月1日は「防災の日」です、平成7年阪神淡路大震災での「いざという時には、普段やっていることしかできない」という危機対応の教訓があります。実際の危機対応では「何をやるのかわからない」「頭では分かっているけど、実際にはできない」「いわれればできるが、実践できていない」という反省が聞かれるそうです。過去の教訓を生かし危機対応で動けないことが起きないように、真剣に危機対応訓練に取り組んでいきたいと思っております。



中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける8月29日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曾川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の8月降雨量は平年を上回る状況（平年比118%～146%）となっており、4ダム合計の貯水率は96%（平年比116%）と、平年を上回る貯水状況となっています。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの8月降雨量は、平年を上回る状況（平年比163%～176%）となっており、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は97%（平年比130%）と平年を上回る貯水状況となっています。

今後も水需要が多い時期が続きます。引き続き、気象・貯水状況に注視していきます。

中部管内各ダムにおける8月の降雨及び利水貯水率（8月29日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	146	118	132	135	176	163	102	195
利水貯水率 （平年比）	88.0 (133.7)	100 (110.5)	100 (103.0)	100 (111.2)	96.2 (144.9)	100 (110.6)	76.5 (118.7)	100 (100.3)

- ・中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。

中部支社HP <https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

- ◆リアルタイム情報 <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>
- ◆中部管内の水源状況（平日更新） <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>
- ◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou04-1.html>

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和3年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、三重用水施設の電気設備を支える中堅職員に、施設管理の難しさや人材育成、趣味のことなどについてお話を伺いました。



<Profile>

濱田 哲郎 Tetsuo Hamada

三重用水管理所 設備班

平成17年 独立行政法人水資源機構 採用

下久保ダム管理所に配属

(木曾川用水総合管理所、

阿木川ダム管理所等にて勤務)

令和2年12月 三重用水管理所へ異動

■ 打上調整池でインタビューに答える濱田さん

濱田さんは平成17年に水資源機構（以下「機構」という。）に採用され、これまではどのような業務を経験されてきたのですか。

——電気通信職として、電気設備の維持管理業務を主に行ってきました。その中でも、ダムの管理業務に多く携わってきましたが、近年は木曾川用水、三重用水と水路施設の管理に関する勤務が続いています。

濱田さんは職員として採用されるまで、機構のことはご存知でしたか。

——当時の水資源開発公団に父親と兄が勤務しており、小さい頃からダムをよく見ていたので機構（公団）というより「ダムのことを知っていた」という感じで、機構（公団）の組織のことは正直意識してはいませんでした。

ご家族が職員だったのですね。そうすると、機構の組織や仕事のことは小さい頃からよくご存知だったかと思いますが、実際に就職しようと思ったきっかけがありましたら教えてください。

——小さい頃は「ダムの操作や水を管理しているなんてすごいなあ」くらいの感じでした。父が土木職、兄が事務職でしたが、自分が電気の情報系を専攻していたところ、父から

「機構の電気職を募集しているが受験してはどうか」と言われて受けてみたというのが最初のきっかけでした。

お父様とお兄様とはそれぞれ職種が違うのですね。ご実家に帰られた際はお仕事の話もされるかと思いますが、どんなお話をされているのですか。

—実家のある高知県に帰省した際には、お酒を飲みながら父や兄と仕事の話もします。それぞれ職種は違いますが、機構（公団）でダム管理に携わっていたというのは共通の話題ですので、仕事の近況ややり方に関する話などもしています。共感する部分もあれば議論になるような話をすることもありますね。

就職して初めての勤務地が埼玉県にある下久保ダム管理所とのことでしたが、実際に勤務してみて、下久保ダムでの業務や、関東地方での生活はいかがでしたか。

— 1人暮らしの経験が少なく、関東でも暮らしたことがなかったので最初は不安ばかりでした。業務についても、学生時代の経験を生かせることが少なく何事も一から覚えること多かったため、最初はつらいと感じることも正直ありましたが、優しい先輩方、近くの同期の存在もあり、業務をこなしながら少しずつ自信をつけていったという感じでした。当時の関東管内では、事務所の有志で野球やフットサルチームを結成し、週末に事務所対抗のリーグ戦をやっていたので、そこでたくさんの人と顔見知りになれたのが良かったと思います。

勤務時間外もスポーツ等を通じてたくさんの人と知り合える機会があるのは良いことです。下久保ダムでの勤務を経て、その後は現場一筋で様々な経験してこられました。これまで印象的だった出来事がありましたら教えてください。

—下久保ダムの後は四国のダム管理の勤務地が多かったため、電気通信職と言いつつ洪水予測等の管理も多くやってきました。その中でも、特に常時緊張状態を強いられ、心身共に疲弊する池田ダムの交代勤務（ダムの予測や操作を24時間職員が当番制で監視）をやり切ったのは何となくですがダム管理を行う職員として自信がついたような気がします。

池田総合管理所での業務は相当に大変だったのです。現在は三重用水管理所で電気通信設備の管理を担当されていますが、三重用水の施設や管理所のある菰野町の印象はいかがですか。

—これまで、四国の山の中の勤務が多かったため、菰野町は自然豊かな場所ですが私からすると住みやすい都会だと思います（笑）。

濱田さんは中部管内で複数の管理所に勤務された経験があるそうですが、他の事務所と比較して、三重用水はどのようなところが業務を行う上で難しいと感じていますか。

—三重用水の特徴として5ダム（打上ダム、中里ダム、宮川ダム、菰野ダム、加佐登ダム）を三重用水管理所1カ所で遠隔にて一元管理をしているので、電気設備としても管理するものが多数あり、設備を複雑化させているところだと思います。

電気設備のスペシャリストとして、「三重用水施設のここが特徴的」という設備がありましたら是非ご紹介をお願いします。

—やはり5ダム分の管理を一カ所で行っているので、5ダム+用水路を統一して遠隔で制御監視している「水管理制御処理設備」が一番だと思います。現在、当該設備の更新を行っているところですが、操作方法等が変わることにより向こう数年間の管理に大きな影響を与える設備なので、色々考えることが多すぎて四苦八苦しているところですよ・・・。

続いて人材育成についてお伺いします。これまでも後輩はいらっしゃったかと思いますが、今年は新規採用職員の部下ができたそうですね。このことにより、仕事に対する意識は変わりましたか。また、教育の面で気をつけていることがあれば教えてください。

—以前にも新規採用職員の部下がいたことがありましたが、やはり一から教えるということなので、自分の考えや、やっていることを当たり前のように教えるのではなく、根拠に基づいてやっているということ、押しつけにならないようにしているつもりです。あとは自分も若返った気持ちで一緒に仕事をしています（笑）。

色々考えながら教育されているのですよね。現在、発注等の多忙な業務や慣れない人材育成などでお忙しい日々が続いているかと思いますが、ストレス解消のためにしていることや趣味などについて教えてください。

—最近、二人目の子供が生まれたので、平日は寝顔しか見れませんが、休みの日に子供と触れあえるのが一番の楽しみです！あとは、新型コロナウイルスのせいでなかなか実現できていませんが、飲み会であったり、帰宅後の晩酌が日常的なストレス解消になっています（笑）。

最後になりますが、今後どのように活躍したいと考えておられますか。また、これまで培ってきた経験を今後どのように役立てたいと考えられていますか。

—入社して17年になり、ダム管理、水路管理と勤務させていただきましたが、まだまだ覚えていかなければならないことも多いです。ただ、電気設備はほとんどの業務に欠かせないものであり、電気設備や電気職員がいなければ仕事が成り立たず、縁の下の力持ちとして支えていく！といった気持ちは今後も忘れないようにしていきたいと思っています。目まぐるしく進化する技術の進歩についていき、機構の電気設備に反映させていけるよう、これからも現場で日々研鑽しつつ、知識と経験を増やしていければと考えています。



■三重用水管理所にて



■打上調整池にて

暑い日が続く8月上旬、インタビューにお応えいただきありがとうございました。インタビューを通じ、仕事に対して真摯に向き合われているところがとても印象的でした。また丁寧な受け答えいただき、人当たりの良さも非常に感じたところです。インタビュー後、居合わせた部下の方からも濱田さんについてお話を伺いましたが、いつも頼りにしています！とのことで、良い関係性であることがよく分かりました。また、濱田家は非常に機構にご縁が深いことも分かりましたので、ゆくゆくはお二人のお子さんも、将来機構にご縁があるかもしれませんね。

今後とも「水を支える電気通信職のスペシャリスト」として濱田さんのさらなるご活躍を期待しております。

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応じていただける方を引き続き募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。



ブレイクタイム 四字熟語

【 百錬成鋼（ひゃくれんせいこう） 】

・心や体を何度も何度も鍛えることによってはじめて立派な人間になれるのだという意味

《新着情報》

中部支社

○ 令和4年度中部支社優良工事等の表彰を行いました

7月15日（金）、中部支社において、令和4年度中部支社優良工事等表彰式を執り行いました。

本表彰制度は、水資源機構発注の工事等を受注し、その成果及び工事等の取り組み姿勢が特に優秀で他の模範となる工事等を選定し、受注者を表彰することによって、技術力の向上を図り円滑な事業推進を期待するものです。

表彰内容は、令和3年度に完成した工事等から、優良工事表彰及び優秀工事技術者表彰、優良業務表彰及び優秀技術者表彰となっています。

今回は中部支社長表彰として、優良工事1件、優秀工事技術者1名、優良業務3件、優秀技術者3名の表彰を行いました。



【優良工事表彰（支社長表彰）】

木曾川大堰調節2号ゲート整備工事 佐藤鉄工株式会社名古屋営業所

【優秀工事技術者表彰（支社長表彰）】

木曾川大堰調節2号ゲート整備工事 佐藤鉄工株式会社名古屋営業所 福谷伸一（現場代理人）

【優良業務表彰（支社長表彰）】

牧尾ダム堆砂量調査測量業務 株式会社共栄テック
令和3年度味噌川ダム堆砂測量業務 株式会社マドック
中部管内気象予測検証業務 （一財）日本気象協会 中部支社

【優秀技術者表彰（支社長表彰）】

牧尾ダム堆砂量調査測量業務 株式会社共栄テック 田中良知（主任技術者）
令和3年度味噌川ダム堆砂測量業務 株式会社マドック 伊藤雅透（主任技術者）
中部管内気象予測検証業務 （一財）日本気象協会 中部支社 道広有理（管理技術者）

また、各事業所においても優良工事表彰を行っていますので、以下の事業所名をクリックしてご覧ください。

[豊川用水総合事業部](#)
[愛知用水総合管理所](#)
[木曾川用水総合管理所](#)
[岩屋ダム管理所](#)
[阿木川ダム管理所](#)
[徳山ダム管理所](#)
[長良川河口堰管理所](#)
[味噌川ダム管理所](#)
[三重用水管理所](#)



豊川用水総合事業部

○ 高校総体自転車競技東海大会が開催されました

6月19日（日）、豊川用水総合事業部が管理する万場調整地（豊橋市）において高校総体自転車競技東海大会（ロードレース競技）が開催されました。

参加選手は、愛知、岐阜、三重、静岡の高校の代表、男子24名、女子8名で、競技内容は、万場調整池を周回する管理用道路を男子16周（44キロメートル）、女子8周（22キロメートル）するものです。

本日のロードレース競技と、前日豊橋競輪場で実施されたトラック競技の成績上位者が、本年7、8月に四国で開催される全国大会に出場出来るとのことで、参加選手の、一見クールだがひとたび競技が始まれば気迫のこもった表情と、ペダルを踏みこむ力強さが印象的でした。

管理業務に支障のない範囲で、管理施設を利用したこのような高校スポーツ界最大のイベントの予選を兼ねた大会に協力できたことは、機構のPRや、地域の活性化に繋がる意義のあることと感じました。



■ 44キロメートル先のゴールへ

○ 熱中症対策講習会を実施しました

6月20日（月）、豊川用水総合事業部において職員等の熱中症対策に関する知識向上を目的として「熱中症対策講習会」を開催しました。

当日は、外部講師を招いて職員等82名（うち51名はWEB）が参加し、熱中症の分類や初期の対処方法等を学習するとともに、熱中症にかからないためには日々の健康管理が重要であるということを各々が認識できたことと思います。

今後、更に暑い日が続くと思います。今回の講習会で得た知識を実践しながら、更なる熱中症対策を図っていく所存です。



■ 外部による講演の様子

○ 巻上機の運転に係る特別教育を実施しました

7月21日（木）、22日（金）、豊川用水総合事業部新城支所において巻上機の運転に係る学科教育、中山調節堰等で実技教育を実施しました。

この特別教育は、労働安全衛生規則第36条に基づき、『動力により駆動される巻上機の運転の業務』を行う場合に必要となるものです。水機構では水門設備などのワイヤロープウインチ式開閉装置の操作業務が対象となります。

今回の学科教育は、中部管内の他事務所へもWEB配信することで、より多くの方へ効率的に教育を行うことができました。

今後も操作時の安全確保、コンプライアンス遵守のため、巻上機の運転に係る特別教育を適宜実施していきます。講師や受講者の皆様、暑い中お疲れさまでした。



■ 学科教育の様子



■ 調節堰での実技教育

○ 寒狭川下漁協イベントに参加しました

7月24日（日）、寒狭川頭首工の約4キロメートル上流（新城市）において、寒狭川下漁業協同組合が主催するイベント「川に集まれ～・川と私たちの暮らし」が開催されました。

豊川用水総合事業部では、寒狭川頭首工の上下流を範囲とする寒狭川下漁協との相互理解の促進や地域貢献及び当事業部の施設の一つである寒狭川頭首工の役割等の広報を目的として、このイベントにご協力いたしました。

当日は晴天にも恵まれ、約70名の方が参加されました。当該イベントは、4年ぶり6回目の開催で、「イカダ乗り体験」や「鮎のつかみ取り体験」など親子で楽しめる企画が多数実施されました。豊川用水総合事業部でも、会場でのパネル展示や参加者をマイクロバスで寒狭川頭首工にご案内し、頭首工の役割やその重要性について説明しました。

微力ではありますがこのようなイベントに協力させていただくことで、地域との繋がりを強化できたのではないかと考えております。



■ パネル展示で機構PR



■ 大人気の鮎のつかみ取り

木曾川水系連絡導水路建設所

○ 徳山ダム堤体登坂の自然体験プログラムを応援補助しました

揖斐川町にある生命の水と森の活動センターは、揖斐川流域全体の貴重な財産である徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域の豊かな自然環境の保全と水源地域の活性化を図ることを目的として活動しており、機構としてもこの活動に協力しております。

その中の自然体験プログラムの一つとして、徳山ダム堤体登坂が組み込まれており、7月30日（土）に実施され、その応援補助を徳山ダム管理所職員と共に行いました。

当日は夏空で時折爽やかな風が吹く中、新型コロナ感染防止対策を取りつつ、10時10分に一般応募の総勢13名の親子がダム直下の洪水吐き左岸から堤高161メートルのうち、地上に姿を現しているダム堤体高さ134メートルを左岸のゴール地点（標高406メートル）を目指し、斜度25度、距離504メートルをセンター職員の先導・付き添いを受けながら、それぞれのペースで登りはじめ、約40分後に参加者全員が無事ゴールしました。

当事務所職員は、ゴール地点の「ようこそ徳山ダムへ」の横断幕の設営、管理、登坂者の安全監視及びゴールされた親子に日付け入りの徳山ダム堤体登坂の記念缶バッジの配布を行いました。

普段は立ち入ることが出来ない巨大ロックフィルダムである徳山ダムの堤体の斜面を、参加された皆様は額に汗を流しつつその壮大なスケールを感じながら登るという大変貴重な経験をされ、ゴール後は記念缶バッジを手に完登の喜びと心地よい疲れに浸っておられるようでした。



■堤体斜面を登る参加者



■記念缶バッジ配布の様子

愛知用水総合管理所

○ 令和4年度可搬式浄水装置実地訓練（第1回）を実施しました

愛知用水総合管理所の東郷調整池を利用し、8月4日（木）、5日（金）の2日間にわたり可搬式浄水装置の実地訓練を行いました。

災害支援等において必要な可搬式浄水装置を確実に設営・操作することができる人材の育成を目的として、コロナ禍の中、さらに酷暑という時期となりましたが32名が参加し、操作手順を確認しながら順調に訓練を終わらせることが出来ました。

また、4日の午後には、日本水道協会中部地方支部から7名、民間企業から5名の訓練見学者も見えて、装置の確認及び訓練の状況を見学されていました。



■訓練内容の説明の様子



■操作の実地訓練の様子

木曾川用水総合管理所

○ 弥富市との防災協定を締結しました

6月27日（月）弥富市と当総合管理所の間で災害時における当管理所建屋の「津波・高潮避難場所」としての使用に関して協定を締結しました。

弥富市は海拔0メートル地帯に位置し洪水や津波による浸水被害が想定されており、高層の建造物が少なく、災害時における避難箇所が限られた地域で、特に弥富管理所が位置する弥生地区は、河川堤防沿いの低層住宅地で避難場所確保を課題としていました。このことから、大規模な地震による津波あるいは台風による洪水・高潮等の災害が発生した場合または発生する恐れがある場合において、木曾川用水弥富管理所を「津波・高潮緊急時避難場所」として市民等の受入れを行うことができるよう弥富市から要請があり、協定を締結しました。

当日は市役所において弥富市の安藤市長、副市長、総務部長、木曾川用水の齊藤所長、副所長、弥富管理所長の出席のもと、協定締結式を行いました。



■ 協定締結



■ 署名の様子

○ 地元小学校の木曾川堤防清掃と総合管理所見学会を開催しました

総合管理所と近傍の稲沢市立長岡小学校は社会教育の一環で全学年（年3回に分けて）による木曾川河川堤防の清掃活動と4年生を対象とした総合管理所見学会を毎年実施しています。

5月31日（火）の河川堤防清掃活動では1、6年生の38名が参加し、堤防のゴミ拾いを行いました。木曾川用水は児童が怪我や事故に巻き込まれないようにこの活動のサポートを行いました。この活動を通じて、ゴミの分別の大切さ、河川やこの地域を綺麗にする心を育むことができたとと思います。

6月22日（水）の総管見学会には4年生の20名が体験学習に訪れ、水クイズ、操作室見学、水路模型などにより木曾川用水の仕組みについて学びました。長岡小学校の横には木曾川用水の海部幹線水路が通っており、日頃見ている大きな水路にどんな役割があり、その

水が地域の農業・水道・工業に使われ多くの人に役立っていることを学習し、水の大切さについて学ぶことができたと思います。



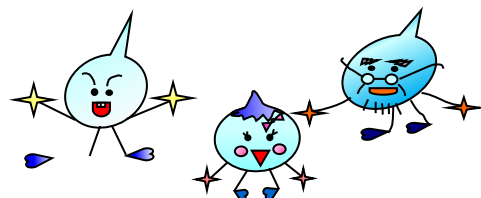
■清掃後の集合写真



■水路模型による学習

○ 環境水路の生き物調査に参加しました!!

雨が続き開催が危ぶまれましたが、七夕である7月7日(木)に、美濃加茂市立山之上小学校4年生の児童18名が参加して、学校付近の環境水路において、「生き物調査」が開催されました。機構からは、美濃加茂管理所より2名が参加しております。生き物の講師「安藤先生」とともに児童は水路に入り、カワムツやスジエビなど合計22種類の生き物を採取しました。特にカワニナが多く採取され、時期によっては蛍の成虫が観察されるそうです。



■木曾川用水のキャラクターたち

現地調査に先立ち、岐阜県可茂農林事務所から環境水路の目的・役割、木曾川右岸用土地改良区連合と機構より農業用水路について講義を行いました。

水路に生息する生き物の種類より、川の水質が良好であること、川のはたらき、水の大切さを学ぶきっかけにもなったと思います。

児童たちは野外での生き物採取に、目を輝かせ、楽しい勉強会になりました。



■生き物の採取状況



■学習会の様子

○ 防災訓練を実施しました（船舶等操作訓練）

6月24日（金）、防災訓練の一環として、木曾川用水総合管理所の職員により、木曾川大堰で船舶操縦訓練と小型移動式クレーン操作訓練等を実施しました。

木曾川大堰は、木曾川河口から約26キロメートル地点に設置され、堰長約600メートル、水位を維持するためのゲート14門（1門約40メートル）で構成する大規模な施設です。

日常の管理では、監視カメラや巡視により施設やその周辺を監視し、常に安全な状態であることを確認していますが、河川での水質事故や洪水等などにより、河川内で緊急を要する確認や作業が必要となる場合には、所有する船舶や小型移動式クレーンを用いて、職員が直接対策を行います。

船舶や小型移動式クレーンを操縦するために職員は必要な資格を取得しており、緊急時に即座に対応できるよう日頃から訓練を行っています。

これ以外にも、可搬式ポンプ設備の設置訓練や地震防災訓練など、広域災害における地域防災との連携も視野に入れ、1年を通して防災訓練に取り組んで参ります。



■訓練の様子



ブレイクタイム ことわざ
【 禍も三年経てば用に立つ 】

・予想もしていなかった不幸な出来事や災難でも、3年も経てばその経験が役に立つ時がくる。転じてどんなことでも無駄になるようなことはない、という意味のことわざ。

岩屋ダム管理所

○ 「岩屋ダム見学会」を開催しました

7月13日(水)、下呂市立金山小学校の4年生33名の岩屋ダム見学会を開催しました。この見学会は、岩屋ダム見学を通じて、ダムの役割や水の大切さを知ってもらうために毎年開催しているものです。

ダム等に関する説明の後、岩屋ダムの堤体、ゲート室や操作室を見学してもらいました。児童は積極的に挙手し質問をするなど、意欲的に参加していただきました。



■ダムに関する説明の様子



■操作室見学の様子

○ 「環境体験学習会」を開催しました

8月3日(水)、下呂市立金山小学校の4年生を対象とした環境体験学習会を馬瀬川下流漁業協同組合と協働で開催しました。

児童は馬瀬川に生息する水生生物を採集し、生息している水生生物の種類によって馬瀬川の水質がどんな状態なのか学び、最後に川へアマゴの稚魚を放流して、環境体験学習会は終了となりました。児童は馬瀬川がきれいな川であることを知り、水を大切に使い、自然を汚さないことの大切さを理解してくれたかと思います。



■水生生物採集の様子



■生物を水質毎に分別

阿木川ダム管理所

○ 阿木川ダム流域水質保全対策協議会を開催しました

新型コロナウイルス感染拡大により最近2年間は関係者への資料送付のみとしていた阿木川ダム流域水質保全対策協議会を6月27日（月）に3年ぶりに開催しました。

この協議会は、岐阜県、恵那市、中津川市それぞれの環境、衛生、農林、河川等の担当課長と阿木川ダム管理所長で構成されており、曝気循環設備の設置完了直後の平成21年度に設立され、流域から排出される流入塩類の削減に取り組んできました。

今回の会議では、阿木川ダム管理所から管理開始以降のダム湖の水質変化、各機関から流入塩類削減に向けた昨年度の実績及び今年度の計画が説明され、意見交換を行いました。

意見交換の後、阿木川ダム管理所から、情報提供として、本年5月25日から約1ヶ月継続した冷水病による魚類へい死への対応（へい死魚の回収、河川巡視、水質監視、広報等）を説明しました。



■ 協議会の様子

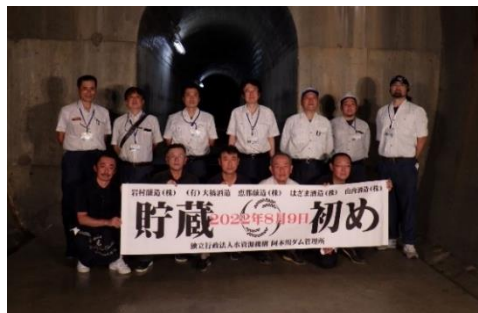
○ ダムの地下で日本酒の貯蔵・熟成をはじめました

8月9日（火）に恵那市・中津川市に所在する5つの酒造会社と阿木川ダム管理所は、「阿木川ダム水源地域ビジョン」の具体的方策の一つである「地域産業の振興（新たな特産物の創出）」の一環として、協働で阿木川ダムの地下アクセストンネル内に日本酒450リットルの貯蔵を行いました。

年間を通じてほぼ一定の温度（約20℃）が保たれる阿木川ダムの地下に1～2年間の予定で貯蔵されることにより、日本酒は熟成し、よりまろやかな、よりすっきりとした飲み口になり、新たな地域の特産品となることが期待されます。熟成された日本酒の蔵出しがなされた時は、是非お買い求めいただければ幸いです。また、阿木川ダムとしてもダムの良いPRになればと期待しています。



■ トンネル内への運び込み作業の様子



■ 運び込みが完了し、貯蔵開始

徳山ダム管理所

○ 貯水池内で魚類等の生息環境改善活動を実施しました

7月13日（水）徳山ダム貯水池内（扇谷地区）で今年3度目の魚類等の生息環境改善活動を行いました。

河床をレーキや鋤簾をつかって掻き起こし、これにより河床の砂礫等を剥離させ、アジメドジョウをはじめとした魚類が侵入できる隙間を発生させる河床耕耘と、河川の両岸に沿うように、遡上ルートを作り、稚仔魚の隠れ場所として、流入河川の淵にヤナギ、竹、ブナで3束ずつ作成した粗朶（そだ）を合計9束設置しました。

徳山ダムでは、今後とも魚類が住みやすい環境作りに取り組んでまいります。



■河床耕耘・遡上ルート作成の様子

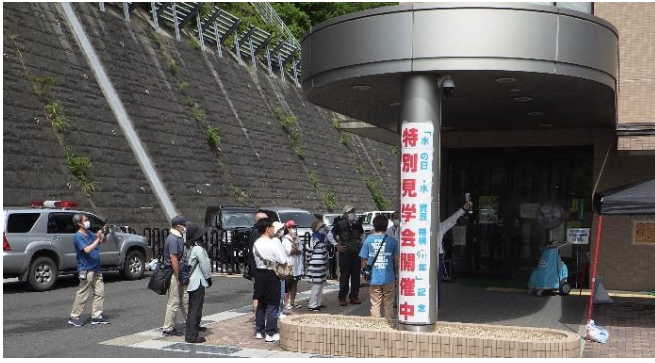


■粗朶設置の様子

○ 「水の日・水資源機構60年」記念特別見学会を開催しました

7月31日（日）コロナ禍で休止していた水の週間行事の徳山ダム特別見学会を3年ぶりに開催しました。

密を避けるため募集人数を制限し、感染対策を行いながら少人数グループ毎に職員1名が案内につくダム施設見学のほか、管理所内に展示室を設けてダムの目的、治水、水位低減効果、事前放流、流域治水、水資源機構60周年などのパネル展示やダム周辺の自然や動物、点検放流の動画を上映して機構のPRを行いました。来場して頂いた方には、管理所横の人道トンネルを開放して、暑さを凌いでいただきました。



■ 見学会開始の様子



■ 記念缶バッチを手にする見学者



■ パネル等展示の様子



■ 人道トンネル開放

長良川河口堰管理所



■ 花火で浮かび上がった長良川河口堰

○ 桑名水郷花火大会が開催されました

7月30日(土)に桑名市において「桑名水郷花火大会」が開催されました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止が続いており、今回は3年ぶりの開催となりました。この花火大会では、管理所に近い揖斐川の中州より花火が打ち上げられていますので、アクアプラザながら周辺も含め、長島側の堤防沿いには花火の観覧を目的とした人々が大勢集まっていました。今回は30分の時間短縮での開催でしたが、例年の半分程度、約5,000発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩っていました。久しぶりの開催ということもあり、アクアプラザ周辺で観覧している人々の楽しげな様子がとても印象的でした。

味噌川ダム管理所

○ 「やぶはら高原はくさいマラソン」に参加しました

新型コロナウイルス感染防止対策の関係で2年連続で中止になっていた「やぶはら高原はくさいマラソン大会」が7月2日（土）に開催され、味噌川ダム管理所職員は管理所前で選手に水を渡す給水スタッフとして参加しました。

また、当管理所独自で設置している簡易のミストシャワーについては、選手たちには大変好評でした。

選手としては、当管理所からはハーフマラソンに2名、愛知用水から1名が参加し、全員完走を果たしました。体力に自信がある方は、来年の大会に是非エントリーされてはいかがでしょうか。

味噌川ダムのある木祖村では、このようなイベントが数多くあり、味噌川ダムとしても、地域のイベントには進んで参加するとともに、ダム事業を広報する良い機会だと考えています。



■マラソン大会の様子

○ 木祖中学校生徒の職場体験学習が行われました



■説明を受ける生徒

7月25日（月）、味噌川ダムの地元、木祖村にある木祖中学校より2名の生徒が管理所を訪れ、職場体験に臨みました。各施設の見学や点検業務等を行い、職員のサポートの下、一生懸命取り組んでいました。ここでの職場体験を糧に、自身の進路にも大いに役立てていただきたいというのが、職員一同の願いです。

三重用水管理所

○ 中里ダム「離郷の碑」の清掃活動を実施しました

三重用水管理所は、7月3日（日）、旧深尾地区の皆様と一緒に、利水者の三重用水土地改良区にも参加いただき、中里ダム「離郷の碑」の清掃活動を行いました。

三重用水事業のために移転された28戸のご協力により、中里ダムは昭和47年3月に着工し昭和52年3月に完成しました。この離郷の碑には、故郷を離れる思いを「移転の犠牲によって満々とダムにたたえられた精冽な水が、願わくば世の多くの人たちを潤す水とらんことを。さらばふるさと。」と刻まれています。

三重用水に勤務する職員一同、いつまでも感謝の気持ちを忘れずに日々の管理に努めていきます。



■清掃活動参加者での記念撮影



■清掃活動の様子

○ 菰野調整池直下流赤川の清掃活動を実施しました

三重用水管理所は、7月13日（水）に菰野調整池（きらら湖）直下流の赤川沿いの清掃除草作業を実施しました。

赤川において、環境保全など地域活動を行っているNPO法人「マこもの里自然に親しむ会」と協働で実施しているものです。

NPO法人が毎年5月20日（金）から6月30日（木）に実施しているホタル観察会に三重用水管理所も参加しています。今年も赤川では、多くのホタルの飛翔が確認されました。

これからも水辺の生物たちが赤川で元気に生息出来るよう、NPO法人と協働し定期的に赤川の清掃活動に取り組んでいきます。



■ 清掃前の説明の様子



■ 赤川の清掃活動の様子

編集後記

【担当課：中部支社総務部 経理管財課】

7月になり、茹だるような暑さが続き、体温より高い日もあり、異常な暑さも珍しくなくなっています。

私は夏の暑さは苦手ですが、暑いからといって仕事を休むわけにもいかず、また、暑さを和らげてくれる恵みの雨も期待しますが、こちらも都合良く降るとは限りませんし、反対に東北地方を中心に異常な降雨が続き被害が心配されるところです。

例年であれば、8月はお盆時期に休暇をとり帰省や行楽に出かける機会が多くワクワクした楽しい季節であります。

今年の夏も未だに新型コロナの変異株BA5の影響が払拭されず、特に7月から第7波が猛威を振るい始め、連日ニュースでも感染者数の増加が伝えられており、第6波の時よりも周囲で感染する人が目立ち始めました。十分な対策を取って注意していても、いつ自分が感染者になってもおかしくない状況ですが、そのような状況でも以前のような厳しい行動制限が出されていませんから、帰省や旅行に出かけたり、地元のお祭りや花火大会が開催されたり、スポーツ観戦や各種イベント等の参加で楽しむことが出来るようになりました。また、8月は夏休み期間中に家族やグループで、海や川でのバーベキューや水遊びなどを楽しむことが出来る季節です。



今回のコロナ禍の感染対策では自己責任での行動が大切と思われまます。「マスク・手洗い・うがい」といった基本的な対策やルールをしっかり守って夏を楽しみたいものです。



今月の水通信はいかがでしたでしょうか。

「水通信」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。

[mailto: chubu_water@water.go.jp](mailto:chubu_water@water.go.jp)

*** 『第188号は、10月下旬に発行する予定です。』 ***
バックナンバーをご覧になりたい方はこちら

<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/mizutsuushin/mizutsuushin.html>



☆中部管内事業所のホームページアドレスは、以下のとおりです

中部支社 :	https://www.water.go.jp/chubu/chubu/
豊川用水総合事業部 :	https://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/
木曽川水系連絡導水路建設所 :	https://www.water.go.jp/chubu/kisodo/
愛知用水総合管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/aityosui/
木曽川用水総合管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/kisogawa/
岩屋ダム管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/iwaya/
阿木川ダム管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/agigawa/
徳山ダム管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/tokuyama/
長良川河口堰管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/nagara/
味噌川ダム管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/misogawa/
三重用水管理所 :	https://www.water.go.jp/chubu/mieyosui/

発行者：水資源機構中部支社